

取組名	ボランティア自主活動をととした「きれいで安全・安心な御庄づくり」
取組の特徴	地域に出向いての清掃ボランティア活動をととして地域の現状を知り、整備・改善することにより、生徒が自分の住む地域の環境や安心・安全に対する意識を高めることができ、地域の安全づくりにつながる活動となっている。
学校名	岩国市立御庄中学校

取組の概要

- 1 活動名 ボランティア自主活動（地域清掃の部）
- 2 目的
 - 地域の美化をととして、誇りのもてるふるさとづくりに貢献する。
 - 清掃活動をととして、地域の環境と安心・安全なまちづくりへの意識を高める。
 - 人の役に立つことやふれあうことの喜びを感じ、ボランティアの精神を身に付ける。
- 3 期日 平成23年6月21日(事前学習会), 9月5日, 10月11日, 3月16日
- 4 場所 公園や広場、駅、道路など校区内の公共施設を中心に生徒が決定
- 5 参加者 御庄中全校生徒、教員、保護者、地域の方
- 6 内容 地域に出向いて公共施設を中心として、除草やゴミ拾い、清掃などの活動を行う。活動前には、事前調査を行い、活動内容や方法を、全校生徒が縦割り班に分かれて行う。活動後には、反省の時間をもち、次の活動に生かすようにしている。
- 7 成果 本校の伝統ある教育活動のひとつにボランティア活動があげられる。中でも地域に出向いての清掃を中心とした活動は、生徒が地域の環境、特に安全面における現状を知る上でも大いに有効である。場所によっては、喫煙の跡が見られたり、危険物（ガスライターやボンベなど）が放置されていることもある。定期的かつ継続的な活動としているので、地域の様子の変化に意識を向けることもできる。生徒が自分たちの手で整備・改善することにより、地域の安全を守り、危険に気づく能力を育てるという面からも成果を上げている。
- 8 活動の様子

【地域のみんなで利用する公園や広場】



← 除草後の広場の
草寄せ作業

きれいなトイレ
で使いやすく→



【電車の車両を利用した御庄駅の待合室】



← 床をクレンザーで
磨く

ピカピカに仕上げ
快適な空間に →



取組名	スクールガードリーダーによる危険予知・回避のための講演会
取組の特徴	生徒の危険予知と回避能力を高めることを目的に、刑事の仕事をとおした自らの体験をもとにし「ひとつしかない命を大切にしよう」と題した講演会を実施した。
学校名	周南市立鹿野中学校

取組の概要

○鹿野中学校スクールガードリーダーである、吉野正継さんを招き「ひとつしかない命を大切にしよう」～不運に負けない気持ちの持ち方～と題した講演会を実施し、自らの命を自分で守るために、これからの人生で遭遇するであろう危険や不運を予測し回避するための方法や気持ちの持ち方などを、自らの体験をもとにお話をして頂いた。

○講演内容＜抜粋＞

- ・人としての生き方
心の中にまっすぐな一本の「信念の木」を持つこと
ねばり強く、辛抱強く、あきらめないで
正直に、嘘をつかない、騙さない、などの心を持つ
- ・学校生活について
一日のスタートは明るいあいさつから
日本の良いところ 思いやりの精神で
いじめ、言葉の暴力は絶対ダメ、追い込むことが自殺という死へ追い込むことになる
- ・思いがけず不幸や不運な事態に遭遇したとき
人の人生は、決して平坦ではなく重い荷を背負い山を越えるようなものである
人生の試練 失敗、病気、思わぬ事故・・・
「信念の木」を思い出しあきらめず、今の自分に何ができるか、見つめ直す
人生における失敗は取り返すことができる
- ・身に迫った危機を回避する方法を身につける
「身体加害目的犯」と「連れ去り目的犯」
危険予知ができる観察力を身につける（危険予知トレーニング）
「身体加害目的犯」の特徴
周囲を気にしない行動、目的の見られない行動、無差別な行動
「連れ去り目的犯」の特徴
うろつき、潜み、引き込み、待ち伏せ、笑顔で接近、声かけ
これらの特徴を知り事前に危険・接触を回避する
刃物が見えたら反対方向に逃げる



○生徒の感想より＜抜粋＞

- ・特に身に迫った危険を回避する方法は、すごく今後に役に立ちました。これから成長するに当たって、鹿野とは違う、都会などに行くことが多くなるので危険回避の方法をきちんと身につけておこうと思いました。

取組名	防犯意識を高める取組～少年リーダーズ活動～
取組の特徴	「自転車盗難被害を防ぐ環境づくり」を目指して
学校名	周南市立富田中学校

取組の概要

10月中旬、周南警察署の青少年非行防止事業の一環として、中学生による自転車盗の犯罪防止・啓発活動をゆめタウン新南陽と新南陽駅周辺で行った。生徒会執行部及び3年生の交通委員はゆめタウン新南陽で、1年生、2年生の交通委員は新南陽駅周辺で活動した。指導者としては、周南警察署員・安全安心まちづくりサポート隊員・少年相談員・スクールガードリーダーの方々がこられた。

活動の前に周南警察署の署員の方から次のような話をいただいた。

○地域の安全は刑法犯の認知件数で分かる

9月末現在、800件(前年比+50件)うち200件が自転車盗で、全体の1/4を占めている。

刑法犯は本年も増加傾向にある

○今回の活動の目的

①自転車の盗難防止

②鍵をかけないことによって犯人をつくってしまうことの防止

③中学生から被害者をつくらない、加害者を出さないこと

活動は2人組で行い、1台1台の自転車を丁寧に点検した。防犯診断カードに書いてある項目をもとにして、不具合のある自転車に対してはハンドルにカードを取り付けた。防犯診断カードに書かれている項目は次の7つである。

防犯登録がありません。

最寄りの自転車販売店で防犯登録を受けてください。

鍵がありません。

カギがかかかっていません。

ツーロックしましょう。

ワイヤー鍵やチェーン鍵によるツーロックが効果的です。

記名がありません。

住所、氏名、電話番号を書いておきましょう。

路上駐車はやめましょう。

駐輪場にとめましょう。



当日参加した生徒たちは活動後、次のような感想を述べていた。

○盗られても仕方がないような状態の自転車がたくさんあった。防犯意識を持って自分の自転車は自分で守るという気持ちを持ちたい。

○今までは面倒くさくて鍵をかけないこともあったが、防犯ロックをしないといけないという認識が深まった。

今後はさらに関係機関との連携を深めていくとともに、体験活動等を充実させていきたい。また防犯意識を高めるために、交通委員を中心として自転車盗難防止の啓発活動を全校生徒に行っていく予定である。

取組名	下松市「あいさつ運動の日」におけるあいさつ・交通安全指導及びたくましい久保っ子を育てる会による安全・安心パトロール
取組の特徴	久保中学校PTA及び地域団体「たくましい久保っ子を育てる会」とともに、家庭・学校・地域団体が一体となって実践し、ネットワーク関係を深め、生徒の健全育成への協働を推進する。
学校名	下松市立久保中学校

取組の概要

1 趣 旨

下松市の「あいさつ運動の日」(10/3)に、家庭、学校、地域、関係団体等が一体となってあいさつ運動、並びに交通安全指導を実施することを通して、あいさつを通じたコミュニケーションづくりや、生徒の交通安全に対する意識の向上を図る。また、毎月(第1火曜日)の「たくましい久保っ子を育てる会」による安全・安心パトロールの活動を通して、学校・家庭・地域とのネットワーク関係を深め、生徒の健全育成に向けた協働を推進する。

2 期 日 平成23年10月3日(月)・11日(火)

3 実施場所 校区通学路交差点3カ所・久保中校門

4 実施時間 3日(月) 登校時(7:30~8:00)
11日(火) 下校時(17:40~18:10)

5 参加者 3日(月) スクールガードボランティア、久保中学校PTA
たくましい久保っ子を育てる会、久保中生徒会
11日(火) たくましい久保っ子を育てる会及び地域各団体
スクールガードボランティア、小・中学校教員

6 啓発方法

「あいさつ運動」

- ・PTA役員と学校が協力して実施要項を作成した。
- ・実施要項を生徒や保護者へ配付し、周知した。
- ・PTA会長、校長連名による協力依頼文書及び実施要項をスクールガードボランティア、地域関係団体へ配付し、協力を得た。

「安全・安心パトロール」

- ・地域の協働の取組として定着しており、啓発用の蛍光ジャケットを着用して実施。

7 取組の成果(「あいさつ運動」)

市教委配付の幟旗を実施場所に設置して、保護者や地域団体、教員、生徒会が一体となってさわやかなあいさつや声かけが行われた。実施にあたり、実施場所付近の商業施設から参加者の駐車場使用の面で協力が得られた。

学校のあいさつ指導の目的や取組を紹介する良い機会にもなり、運動への理解と拡大が図られた。

8 その他の地域や専門家と連携した取組

- ・9/28 専門家と連携した防災出前授業及び第2回学校安全委員会の実施。
地域団体やスクールガードリーダー・ボランティアに参加していただき、防災対策に関する協議を深めた。
- ・10/4 地区の民生委員・児童委員及び保護司との連絡協議会を実施。
学校の授業を参観していただき、情報交換や非行防止の協議を行った。



取組名	警察と連携した防犯教育及び防犯訓練
取組の特徴	専門機関と連携し実践的な避難訓練を行い、教職員の危機管理意識の高揚と生徒・教職員の不審者対応の能力を高める。
学校名	下関市立夢が丘中学校

取組の概要

(1) 事前学習

K Y T資料を作成し、数度にわたり避難経路や避難方法、避難上の留意点等を検討させる。

(2) 研修

昨年度、学校安全の校内担当教員が大阪府池田市で行われる学校危機メンタルサポートフォーラムに参加し研修を行い、防犯教育及び防犯訓練に活かしている。

(3) 警察との事前打ち合わせ

「臨機応変」をテーマに以下のようなことを昨年度から決めている。

- ①生徒には避難経路を事前に決定させない。
- ②110番通報等の役割分担を事前に行わない。
- ③避難訓練当日までの教職員同士の話し合いを大切にする。
- ④不審者役（警察官）の行動・侵入経路は警察側に任せ、本校職員には知らせない。
- ⑤日々の来客対応が不審者対応につながる。

(4) 避難訓練（昨年度の課題や反省点を活かしながら今年度のポイントを作成）

内容	ポイント
不審者役侵入	どこから侵入するかは知らされていない。
発	可能であれば、対応する前に呼び出しボタン（無音）を押す。
初期対応	興奮させない。複数対応。手ぶらで行かない（出席簿や教科書等さりげなく持っていく）。
生徒避難（安全確保）	いかなる場合も、生徒避難最優先。生徒には不審者との距離の重要性を伝える。
110番通報	不審者を目視している者が望ましい。110番ばかりにとらわれて、生徒のみにしない。
全校放送	不審者の状態によって内容も変わる。
不審者対応	さすまた、椅子等を用いる。距離をとる。

(5) 課題と反省点（警察からの指導を受けて）

- ・全校放送が遅れた。
- ・避難しながらどんどん他のクラスに伝えた方がよい。情報を多くの人に伝える。
- ・騒ぐと、不審者が興奮する。
- ・日々のシミュレーションから対応の速度が決まる。
- ・手ぶらで対応しない。
- ・不審者対応に追われ、誘導や避難場所に教員が少ない。
- ・階段でつまった。焦らず並ぶ方が、避難速度が上がる。
- ・避難経路を複数イメージする。
- ・マニュアル化はできないが、犯人対応班、警察連絡班、生徒誘導班など仕事を決めても良い。
- ・不審者を取り押さえに行くと怪我をする。適度の間合いを保つ。後ろに待機していたさすまたを持っていた教員と入れ替われば負傷せずにすんだ。
- ・最初に声をかけた段階で対応教員が不審に感じれば、通報しても良いかもしれない。



取組名	安全教育の充実 避難訓練（地震への対応）
取組の特徴	東日本大震災を受け、地震発生後、火災が発生したという想定で避難訓練を実施した。訓練では緊急地震速報への対応及び、消防署員による講義を合わせて実施した。
学校名	柳井市立大畠中学校

取組の概要

1 目的

- 地震、火災その他の災害発生時の避難経路の確認をし、緊急時の安全で敏速な行動訓練をする。
- 地震及び火災発生時の現状とその原因等に関する理解を深め、防災意識の高揚を図る。
- 関係諸機関との連携、安全な避難誘導、指揮系統の確認をする。
- 校内の防火・避難に関する諸施設の確認をする。

2 訓練実施日時

平成23年7月14日（木） 13:40～14:40

3 災害の想定

- 東南海沖で地震が発生（緊急地震速報）※停電なし
校舎の大きな被害なし
- 揺れがおさまるも、校内で火災が発生
- 生徒の安全を第一に避難行動を開始



4 訓練事項

(1) 学級指導

- ・緊急地震速報のしくみ、地震・火災時の対応の確認

(2) 避難訓練

- ① 緊急地震速報（訓練用音源使用）を鳴らす
 - ・揺れがおさまるまで、机の下等に隠れる
 - ・地震の効果音を鳴らす
- ② 火災警報器発動、災害の確認
- ③ 校内放送により避難指示・避難行動開始
 - ・無言で荷物は持たず、上履きのままで避難集合する



(3) 火災予防、緊急避難の心構え等について

のビデオ視聴、消防署職員による講話



(4) 学校長講評・講話

5 訓練実施後の講評

- ・概ね避難態度もよかった
- ・地震については、自分がどうするか考えることが大切
- ・実際に地震が起きた場合、担任は出入口を確保することが先決（戸が開かないことがある）
- ・水難事故に出会ったら、まず救助を求めることが大切

取組名	地震対応避難訓練（仮想訓練）
取組の特徴	災害から身の安全を守るには、災害の特性を知り状況に応じて危険を予知するとともに、回避・減災のための知恵を働かせてすばやく行動することが大切である。危険予知の訓練を通してこのことを理解し、身の安全を守る能力を伸ばす。また、日頃から進んで災害への備えをしようとする態度を培う。
学校名	山口市立平川中学校
取組の概要	
平成 23 年度 避難訓練実施計画	
山口市立平川中学校	
1	はじめに ◆東日本大震災により保健安全教育（防災教育）の <u>見直しが必要</u> ◆東日本大震災の教訓 ・防災（減災）への備えが重要 ・慢心（油断）は禁物 ・ <u>とっさの機転</u> が命の分かれ目
2	生徒に育てたい防災（減災）についての態度、能力、知識・理解 [態度]「 <u>もしかすると〇〇が危険かもしれないぞ</u> 。そのときは（だから）□□□しよう。また、今から、△△△を準備しておこう」、「みんなで助かる」 [能力] ◎ <u>危険予知能力</u> 被害回避能力 [知識・理解] 災害（地震）の特性、被害・被災の悲惨さ、復興に向けた人々の努力・協力、避難の経路と方法
3	今回の避難訓練 ◆危険を予知し、被災を回避・減災するための仮想訓練 ※本校の生徒は、無言で整然と避難できるので、例年行っている避難訓練は1 2月で兼ねる。
4	本時案 (1) 主眼 災害から身の安全を守るには、災害（今回は、地震）の特性を知り状況に応じて危険を予知し、回避・減災のための知恵を働かせてすばやく行動することが大切であることを理解する。また、日頃から進んで災害への備えをしようとする態度を育てる。 (2) 展開（略案） ① 導入 ② ワークシートによって、災害の状況に応じた対応・行動を各自で考える。 ③ 発表し合い、考えを深める。 ④ まとめ
5	指導上の留意点 ・生徒は、奇想天外の予想をするかもしれないが、想像力を発揮して、“もしかすると、・・・が危険かもしれない”と生徒が自ら危険を予知する思考過程を大切にしたい。 ・災害の状況によって安全な避難は変わるので、安全な対応に正解はないという立場ですすめる。 ・外泊したら避難口を確認したり、海に行ったら高台を確認したりするなど習慣的に安全安心を心がける実践的な態度を身につける。 ・1つの災害について危険回避の能力や態度が身につけば、ある程度の学習の転移が期待できると思われる。そこで、今回は地震を、次回（1 2月）は火災を押さえたい。 ・まずは、自分の身の安全を守ることが大切だが、集団（他の人）も安全や二次的被害を防ぐなどにも配慮して指導する。
6	評価 ◆地震の特性を知り状況に応じて危険を予知して、身の安全をすばやく判断し行動することが大切であることが理解できたか。 ◆教室からグラウンドへの避難経路と避難の方法が理解できたか。

<資料>

○平川中の生徒の皆さんへ ～地震で大切な命を失わないために～

3. 11東日本大震災では、多くの人々が亡くなり計り知れないたくさんの被害が出ました。この大震災に遭遇して助かった人は、日頃から避難訓練や防災の備えを周到にしていた人と、とっさに危険を予知して回避行動がとれた人だと言われています。私たちも、「今、ここで地震があったら、〇〇が危険かもしれないぞ。そのときは□□しよう。」というような危険を予知し、とっさに回避行動がとれる訓練をしておきましょう。また、その時になって「◇◇があったら、良かったのに」と後悔することも多いものです。そのようなことは、今から対策を考え準備をしておくことが大切です。

災害の状況	対 応 ・ 行 動	
	とっさにしなくてはいけないこと	してはいけないこと
教室で授業を受けていると、大きな地震がきて床がぐらぐらゆれ始めました。	<p><例></p> <p>○安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭部を守るために机の下にかくれる。 ・倒れやすい、落ちやすいものから離れる。 ・窓ガラスなど危険なものから逃げる。 ・ストーブを消化する。 <p>○減災のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生や放送の指示を的確に聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・われ先に逃げる。 ・大きな声でさわぐ。 ・ゆれが収まる前に逃げる。 ・荷物を持って逃げない。 ・避難の時、おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない。 ・裸足で避難しない。
体育館で体育(部活)をしていたら、激しく床がゆれ、壁がめしめし音を立て始めました。	<p>※教室と同じこともあるが、体育館ならではの配慮事項を考えさせる。</p> <p>○安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水銀灯、バスケットボード、校歌板、スピーカー、2階の設置物の落下物に注意する。 <p>○減災のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な出口をみつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージ下の戸を開けたままにしておく。(重い台車が飛び出す)
下校途中に大きな地震がきて、道に立ってられないほどゆれ始めました。	<p>○安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築中の建物、電柱、崖の横、自動販売機、橋、トンネル、車道を離れる。 ・看板や割れたガラス、瓦が落下する家の軒下を離れる。 ・カバンで頭を保護する。 <p>○減災のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・負傷の状況を家族や学校に知らせる。 ・安全な広い場所に移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・割れたガラスや崩れた家の材木(釘)を踏まない。 ・垂れ下がった電線に近づかない。 ・小川に近づかない。 ・被害の様子を見に行かない。(早く、家(学校)に帰って安否を知らせる。)
家で一人で勉強していたら、地震がきて急に床がぐらぐらゆれ始めました。	<p>○安全確保のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドやテーブルの下にかくれる。(家具の転倒、天井・照明器具の落下、壁の崩壊) <p>○減災のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストーブ、ガスなどの火気を消す。 ・家族の安否を確認する。 ・テレビで情報を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あわてて家の外に飛び出さない。 ・素足で歩かない。
日曜日に海で魚釣りをしていたら、急に地震がありました。	<p><例></p> <p>○安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水辺から離れ高い場所に避難する。 ・崖、急傾斜地、 <p>○減災のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオや近くの人に聴いて情報を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重い荷物を持って避難しない。 ・素足で避難しない。

取組名	安全に関する意識の向上に向けて
取組の特徴	小学校と連携した避難訓練の実施
学校名	宇部市立小野中学校
取組の概要	
<p>1. 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期発見・緊急避難訓練に重点を置き、防火・防災組織を確認すること等で防火・防災意識を養うとともに、迅速・静粛かつ秩序ある安全な団体行動の訓練を行う。 ・災害時に、小中が連携して安全な行動がとれるよう、小中の避難の仕方の確認を行う。 <p>2. 避難訓練過程</p> <p>(1) 地震発生・待機</p> <ul style="list-style-type: none"> ○緊急地震速報アラーム音・・・机の下に避難、または、物が倒れてこない安全なところで揺れが収まるまで待機（体育座り） <p>(2) 出火発見者報告、初期消火</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発見者・・・(家庭科室付近にいる教員が出火を発見、北西の風) ○報告・・・教頭に報告 ○近くにある消火器をもって現場へ・・・ <p>(3) 通報・連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全校への通報・・・教務主任（緊急全校放送） ○消防署（119番）への通報・・・ ○小学校への緊急連絡・・・教頭 <p>(4) 避難誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○避難場所（本部設定）・・・小学校グラウンド（雨天の場合・・・小学校体育館） ○誘導・・・各場所の教員が避難誘導する。 <p>(5) 避難場所での隊形</p> <p>本部の旗に向かって、全校集会の隊形に集合する。</p> <p>(6) 点呼確認</p> <p>集合完了後、学級委員男子は直ちに人員を確認し、異常の有無を本部へ連絡する。 行方不明者がいる場合には、養護教諭と男性教諭2名で探し、助け出す。（担架の用意）</p> <p>(7) 集合完了した生徒はその場に座り、次の指示まで静かに待機</p> <p>(8) 消防署の方の講評に続き、消火訓練</p> <p>(9) 校長先生の講評</p> <p>3. 事前事後指導</p> <p>実施日以前に、地震や火事の際の避難のしかたについて指導しておく。 実施後、感想を書かせる。</p> <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> *小野小・中学校の第2避難場所は、小野ふれあいセンター。 *災害時には、生徒をそのまま保護者に引き渡して帰らせることも考えられる。記録のために、避難時には、担任は名簿と筆記用具を必ず持って出る。 *災害時（後）には、火元責任者になっている箇所の安全点検をする。 <p>5. 成果と今後の課題</p> <p>①実施にあたって、小学校との打ち合わせを何度も行うことにより、それぞれの学校の実態を把握するとともに、避難訓練及び安全教育以外の面でも児童・生徒の指導に生かすことができる。</p> <p>②地域の学校として、地域の特性を配慮した指導ができる。</p> <p>③今後さらに、避難訓練以外の安全教育（交通指導、通学路の点検等）にも、小学校や地域との連携を図っていきたい。</p>	

取組名	安全に関する組織活動の充実
取組の特徴	昨年度の水害の教訓をもとに、危機管理マニュアルを見直し、実際に連絡網が機能するか通報訓練を行った。
学校名	山陽小野田市立厚狭中学校

取組の概要

- 1 取組 厚狭中・厚狭小・出合小3校合同緊急連絡網を使った危機対応訓練の実施
- 2 日時 7月8日(金) 6:00～
- 3 取組内容 メール配信および生徒連絡網により通報訓練を小学校と同時に実施
- 4 訓練の流れ
訓練は、4月22日付で保護者の皆様に配布している「台風等暴風雨・風水害・土砂災害発生時の対応について」に準じて実施。

※登校時に大雨・洪水警報が発令され、厚狭川避難判断水位4mを超え、登校が困難と判断されたと想定

① 学校災害対策本部の設置

※校長・教頭を中心に教職員で構成。
午前5時30分の時点で対応を協議・決定。



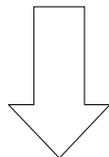
② 厚狭中緊急メールの発信

※午前6時に学校から保護者へ緊急メールを発信。



③ 学級担任から生徒連絡網を活用し、電話連絡

※午前6時に生徒連絡網を使っての連絡を依頼。



※ご不在で連絡ができない場合は、次の家庭に連絡を依頼。

【連絡内容】只今、生徒連絡網を使った危機対応連絡訓練を行っております。ご協力をお願いいたします。

④ 学校へ「連絡終了」の連絡

厚狭中学校
(72-0660)

5 気づき等

- ・約30分で連絡網が行き届くことを確認できた。
- ・各学年で連絡を行ったため、兄弟のいる家庭では、同時に2つの学年に連絡しないと行けないなど、連絡の仕方を徹底しておく必要があった。
- ・校区内の小学校と日時をあわせて行ったため、保護者の理解も得られた。
- ・早朝に連絡をするため、事前の案内をPTA総会、評議員会、地区懇談会、学校だより等で繰り返し行った。実施後のお礼や反省は学校だよりで報告した。
- ・実際には避難勧告ができれば避難優先となる。そのため、連絡網がつかないことも十分考えられる。その際は可能な限り直接学校へ連絡することを再度確認しておく必要がある。

取組名	緊急地震速報受信時対応行動用訓練キット（気象庁）を活用しての地震及び土砂災害避難訓練
取組の特徴	学校の、北・東側の2方向が土砂災害危険箇所指定されている。緊急地震速報受信時対応行動用訓練キットを活用した、地震と土砂崩れから身を守る訓練を通して、実際に即した生徒、教職員の対応力と意識を高める。
学校名	萩市立福栄中学校

取組の概要

地震による被害から身を守るために大切なことは、地震に関する情報の速いキャッチと日頃からの訓練・備えであることはいままでもない。特に本校の北・東側の2方向が土砂災害危険箇所であることを考え、緊急地震速報受信時対応行動用訓練キットを活用して地震と土砂災害から身を守る訓練を行った。

1 訓練キットについて（気象庁作製）

キットは、テレビでの緊急地震速報受信を想定してつくられている。学校では、専用端末機による音声受信、携帯電話によるデータ受信が中心となることを考えて、訓練キットの音声のみを訓練に活用した。

2 学習の流れ

(1) 事前学習

- 資料（気象庁パンフレット）…津波から命を守るために、緊急地震速報
- 地震の揺れを感じたときの、緊急地震速報を見聞きしたときの基本行動
 - ・家庭では ・人が大勢いる施設では ・屋外（街）では ・海辺では
 - ・自動車運転中は ・鉄道・バスでは ・エレベーターでは

(2) 訓練概要

- ①緊急地震速報放送（アラームとアナウンス）
 - ・マグニチュードM7.5の地震が発生。震源地を日向灘。
 - ・萩市部には約数分後に地震が来るという想定。
 - ・地震により体育館東側の崖の土砂が1部崩れ、さらなる崩壊が予想される。
- ②地震発生（効果音）
 - ・「机の下にもぐりなさい」（担任）
- ③避難行動開始案内（アナウンス）
 - ・「運動場西側、体育倉庫前に避難しなさい」
- ④避難
- ⑤振り返り（スクールガードリーダーによる指導・講評）

取組名	登下校安全マップの作成
取組の特徴	1年生が総合的な学習の時間を活用して通学路の安全マップを作成し、文化祭で展示発表をおこなった。
学校名	岩国市立灘中学校

取組の概要

総合的な学習の時間を活用して実施した。

学年全体でオリエンテーションを実施し、安全マップの意義や作業の流れを説明した。毎日自分が利用する通学路にどんな危険が潜んでいるかを考え、ワークシートに記入させた。このワークシートを基に、生徒一人一人の通学路に合わせて、担当する場所を決定し、グループを編成した。

それぞれのグループで、各自の考える危険箇所について話し合い、現地調査計画を作った。計画に沿って、2時間の現地調査を実施した。現地で実際の様子を確認し、道幅などの計測や写真撮影を行った。



その後4時間を使って調査結果をまとめ、コンピュータにデータを入力した。40グループの入力したデータを地域に分け、5つの登下校安全マップとして完成させた。(添付資料参照)

10月22日の文化祭当日は、会場にコンピュータとモニターを用意して、自由に操作して見てもらえるようにした。また、5種類のマップそれぞれを印刷し、来校者に持ち帰ってもらえるようにした。



取組名	生徒の交通安全に対する意識の高揚
取組の特徴	道路交通法に基づく自転車の安全な乗り方や交通安全に対する規範意識を高めさせる。
学校名	和木町立和木中学校

取組の概要

1 生徒の交通安全に対する意識の高揚を図る

(1) 目的

最近、生徒の交通安全ルール・マナーが遵守されておらず、自分の安全は自分で守るという意識を高めさせるため、交通安全指導の徹底を図った。

(2) 自転車安全マニュアルについて

① 自転車点検の徹底を図った。自転車通学生においては、保体委員会を中心にして実施した。部活動時の自転車点検については、部活動顧問が行った。

② 教職員による登下校時の交通指導や巡回を頻繁に行い、生徒の交通安全に対する遵法精神を高めることができ、違反生徒についてはその場で指導することができた。そして、交通違反した生徒には罰則を設け、交通指導も合わせて行わせた。

(3) 成果等

- ① 今年度当初から例年以上の交通安全指導を徹底したため、交通事故は皆無となり、生徒の交通マナーは良くなった。
- ② 地域の方や保護者からの交通に関する苦情は激減し、交通マナーが良くなったとの評価を得た。

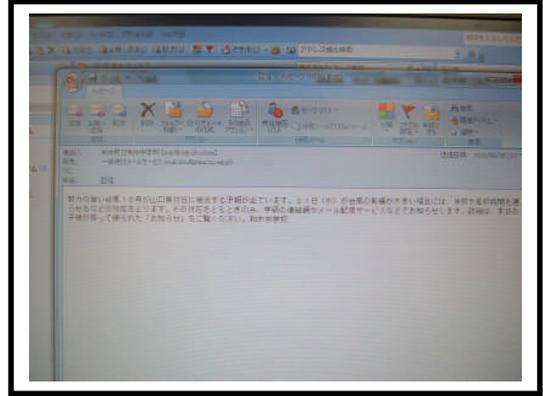


2 メール配信サービスについて

(1) 目的

不審者による誘拐事件や殺傷事件が発生したり、自然災害が頻繁に起きたりする中で、生徒の安全確保への対応は大きな課題である。

学校現場においては、安心・安全ということが教育活動を行っていく上で一番大切なことととらえ、更に危機感を高めていき、迅速な対応と情報提供を行いながら、安全対策の徹底・強化をめざしている。

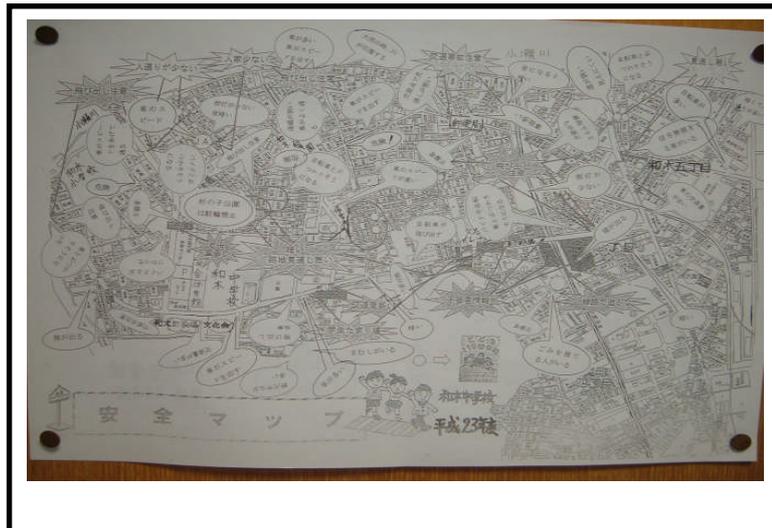


(2) 成果等

保護者への情報提供により第二次被害が未然に防げ、保護者間での情報交換等もできるため、犯罪に対する予防や関心を高めることができる。さらに、学校行事にかかわることや大会等の成績なども情報提供することで、学校と保護者間の連携を密にすることができる。

3 安全マップの作成による危機意識の高揚

生徒や教職員の危機意識を高めたり、日頃何気なく通ったり利用したりしている和木町内の道路や河川などに関心を持たせるために、平成21年、22年、23年にかけて全校生徒に「安全マップ」を毎年追加修正させた。また、犯罪や交通事故が発生しそうな箇所に対する意識も高めさせたり、お互いの情報を共有させたりすることにも役立った。



取組名	安全委員会の生徒による、「安全・安心」への取組
取組の特徴	安全委員の手による「安全・安心マップ」改訂の過程で、自分達の通学路を見直す作業に取り組み、一人ひとりの生徒が自分の通学路についての「KYT」を行うことで、安全で安心なまちづくりを考える。
学校名	下松市立末武中学校

取組の概要

1 昨年度までの取組と気づき

本校では昨年度、交通安全を中心に「KYT」に4回取り組んでいる。いずれも本校の通学路や校区内の交差点の写真から、危険を予測しその回避の仕方を考えさせるという学習である。実際に生徒が予測した危険の多くは交通安全に関するものであったが、中には不審者や夜間の危険性等の生活安全について考えることができた生徒もいた。しかし、大雨のために道路に河川の水があふれたり、強風で電線が切れて路上に垂れ下がったりする等の自然災害の危険性については、ほとんどの生徒が気づくことができなかった。このため、今年度は特に災害安全について意識をして、指導にあたりたい。

2 安全で安心なまちづくりのために

(1) 安全委員による「安全・安心マップ」の改訂の過程から

本校では、教師が校区内を回り危険箇所をピックアップして「通学路における危険・要注意箇所」を作成してきた。できあがったものは全校生徒に配布し、交通安全・生活安全等と呼びかけてきた。

現在の「通学路における危険・要注意箇所」



今年、一学期に実施した「KYT」の気づき・反省から、特定の設定場面に潜む危険予測も大切だが、自分自身の通学路について生徒一人ひとりが危険予測をすることが必要ではないかという意見が多くあがった。そこで、生徒一人ひとりの通学路に潜む危険性を考えさせるにあたって生徒指導部と生徒会担当で協議し、安全委員会の活動をを中心に次のような手順を進めていくことにした。

① 生徒会安全委員会で「安全・安心マップ」の仮改訂版を作成

各クラスの安全委員が各自の通学路について危険予測を行い、挙げられた校区内の通学路の危険箇所を、安全委員長を中心に安全委員会で集約して、「安全・安心マップ」の改訂原案を作成する。

② 学校便りに原案を掲載し、全校生徒・保護者に危険箇所の追加を依頼

学校便りに原案を掲載して、全校生徒・保護者に通学路の危険箇所を把握してもらおう。同時に、冬休みを利用して親子で自分の通学路の点検や、その他の危険箇所がないか話し合ってもらい、危険箇所を追加する。

③ 新安全委員会で集めた意見を集約し、「安全・安心マップ」を完成・配布

3学期に各学級で寄せられた意見を、2年生の新安全委員長を中心に検討・集約し、写真等を加えて「安全・安心マップ」として完成させる。できあがったものを生徒に配布し、登下校の交通安全・防犯対策および災害対策を心がけさせる。また、校区内小学校の卒業予定児童にも配布してもらい、小中学校が連携した安全・安心に対する取組みの一助とする予定である。

(2) 安全委員による安全意識の啓発活動から

本校では、安全意識の高揚をねらって、安全委員会で日々の生活の中の安全を呼びかける活動を熱心に行っている。今後も呼びかけの方法や内容を確認・点検しながら改善を加え委員会活動を活性化させることで、生徒に安全・安心な生活を考えてもらうように努力したい。具体的な取組みを以下に挙げる。

① 毎週水曜日に自転車安全点検を実施

毎週水曜日の昼休みには、安全委員が自転車通学生の車体を点検する。故障や整備不良があった場合は、修理が完了するまで自転車通学許可を停止する。

<自転車安全点検項目>

- ベルは鳴るか
- ライトはきちんと点灯するか
- ブレーキはきちんと作動するか
- ハンドル等にブレ・緩みはないか
- 鍵はきちんと施錠できるか



② 毎週末の末武中学校交通安全宣言の唱和

毎週末の終学活には、校内放送を使った安全委員長の呼びかけにより、末武中学校交通安全宣言を生徒全員が唱和する。このことにより、生徒の交通安全意識を啓発し、交通ルールの遵守を徹底するとともに交通マナーアップを心がけさせる。

<末武中学校交通安全宣言>

「私たち、末武中生徒は『自主勉勵・正義友愛・創意生産』の校訓の下に」

- ヘルメットを着用します
- ゆとりをもち、行動します
- 一時停止をし、安全確認をします
- 遮断機・警報機のある踏み切りを通行します
- 事故を起こさない強い意志を持ちます

取組名	PTA・教職員による下校指導
取組の特徴	PTAの自主的な取組に教職員が協賛する形で、下校マナーの向上を図る
学校名	山口県立岩国高等学校

取組の概要

本校では、定期考査期間中は部活動が休止するため、900名あまりの生徒が一斉下校する。このため、自転車通学生、列車通学生の下校マナーについて近隣の方々から御指摘を受けることが多いのが実情である。そこで、数年前からPTA役員呼びかけによって、PTAと教職員が合同で挨拶指導を兼ねて下校マナー向上の指導を続けている。御多忙の中、多くのPTAの参加を得て、本校の考査中の行事として生徒間にも定着しマナー向上の一助となっている。

右の写真は、学校からJR岩徳線の川西駅に至る下校ルートで車の交通量も多く、危険な地域であるが、役員の方々の指導に従い、生徒の安全が確保されている。



右の写真は、川西の駐輪場から、錦川に架かる臥竜橋に至る川沿いの自転車通学生の登下校ルートである。自転車通学生の下校指導とゴミの収集も兼ねて指導をされている。また、この写真ではわかりにくいですが、この道は夜間は人通りも少なく非常に暗い道で、特に女生徒の危険について以前より指摘のあったルートである。

PTA会長を中心に役員の方々が粘り強く岩国市に照明灯の設置を強く要望していただき、昨年度照明灯が設置され、利用生徒にとっては、下校時の不安が払拭された。



上記の他、毎朝、生徒指導部、学年を中心に正門での挨拶・服装指導を兼ねて、生徒観察を実施している。また、毎月1回、正門周辺、川西駅周辺で風紀委員が教員とともに挨拶、登校マナー向上の呼びかけを実施している。さらに、本年度9月より、生徒会執行部が通学路のゴミを一掃するため、マナー向上の取組を始めている。

取組名	外部講師を活用した情報モラル教育講演会の実施
取組の特徴	これからメディアとどのように付き合っていけばよいか、トラブル防止の方法や情報モラルのいっそうの向上を目指す。
学校名	山口県立柳井商工高等学校
取組の概要	
1	ねらい ケータイ・パソコンなど変化の激しい電子メディア環境の中で、情報の洪水に流されないように、主体的に向き合う力をはぐくみ、メディアと上手に付き合う関係を学習する。
2	方法 特定非営利活動法人（NPO法人）から講師を招き、生徒全員と希望する保護者を対象に、午後の2時間を使って実施した。
3	内容 演題「あなたが大切にされること～電子メディアの社会の中で～」 ①ネット社会の現状 ②サイト利用の注意事項 ③メール・ゲーム依存症について ④掲示板でのいじめについて ⑤トラブルを防止するには
4	生徒の感想から ・自分が何気なく使っていたインターネットには危険がたくさん潜んでいるし、自分の体や心にもよくないものなんだと思った。 ・最初からとてもおもしろくて、分かりやすかった。ネット上でこのようなことが起きているなんてとても怖いと思った。自分も気を付けたいと思います。 ・自分が使っている言葉などにも気を付けないといけないなと思った。大変なトラブルを起こさないために、いろいろ気を付けたい。
5	取組の成果 講演は、大変分かりやすく、実際にあった多くの事例を交えてのものであった。感想文の中で、生徒は今まで安全と思っていたことが、実はそうではなかったということや多くの犯罪が起こっているという事実を知り、今後は気を付けようとする内容が多くみられ、自覚を高めることができた。生徒は熱心に話に耳を傾け、講演の評価も大変よかった。



取組名	生徒の体験学習に焦点を当てた防犯教室
取組の特徴	校内で不審者に遭遇した場面をシミュレーションし、教員や生徒がどのように対応したらよいかロールプレイする。生徒自らが簡単な護身術を体験したり、さすまたを使ってみるなど、生徒の実体験を通して危機回避の方法を検証し考察する。
学校名	山口県立防府高等学校

取組の概要

1 ねらい

本校は四方が一般公道に面しており、外から比較的自由に校地に入出入りすることが可能で、不審者の侵入を未然に防ぎきることはなかなか困難な状況である。そのような状況の中で、万一不審者が侵入し、生徒が教室や廊下等で不審者に遭遇した場合でも、慌てず安全で適切な対応ができるよう、生徒の体験シミュレーションを行う防犯教室を開催している。

対応方法を事前に体験的に学習し予備知識を身につけておくことで、実際に不測の事態に遭遇した時でも、安全で適切な対応がとれる。本校では、「危険回避」、「危険予防の指導」という観点からも毎年「防犯教室」を実施している。

2 方法

例年開催されている教職員対象の「防犯教育研修会」に参加した本校の教員が講師を務め、生徒にとっさの時の「護身術」について説明し、実際にペアごとに実演させてみる。また、本年度は、体育館ステージ上に任意の生徒2名をあげ、不審者に遭遇した場面をシミュレーションして、大声を出したり、さすまたで「犯人」役の教員を捕獲させてみたりした。全校生徒が2人の生徒の行動に注目し、実演後は、実際にどのような対応方法がよいのかについて全校生徒が考え、考察する機会となった。

さらに、危機回避の一般的対応方法として以下のようなことを確認し、指導した。

3 確認・指導内容

《基本的な対応手順》

- ①荷物を守ろうと無理をして抵抗しない。身体の安全が第一である。
- ②凶器の有無を確認する。
- ③できるだけ離れた状態をつくり、大声で助けを求める。
- ④犯人の人相・服装等の特徴をチェックする。
- ⑤逃げ去った後で、即座に110番通報する。

*携帯電話を使う場合も110番でよい。県警本部につながり、同時に近くの交番、パトカー等に連絡が入るシステムになっている。ただし、携帯電話の場合、居場所が特定できないので、場所と状況をすばやく伝えることが大切。とにかく110番に連絡すれば、電話に出た警察の方が必要な情報を誘導してくれるので、聞かれたことに答えればよい。何を言ったらいいのか、どう言えばよいか心配する必要はない。一刻でも速い連絡が大切である。

《不審者等に対する一般的注意事項》

- ①暴力的に対応しない。相手が粗暴にならないよう配慮する。
 - ②むやみに話しかけない。相手に言いたいことを言わせ、その間に状況を冷静に判断できるよう自分の気持ちを落ち着かせる。相手とできるだけ距離を置くよう行動する。
 - ③凶器を所持している場合は、逃げるのが第一である。逃げながら周囲にも危険を知らせる意味で大声を上げる。
 - ④変質者と思われる場合も逃げる。安全が確保できたらすばやく110番通報する。
 - ⑤列車内でトラブルに巻き込まれた場合、恥ずかしがらずに大声を出して助けを求めること。即座に警察に連絡してくれる勇気ある乗客もいる。時々、鉄道警察が乗車しており、運良く助けられることもある。
- *新山口駅在来線口の2階に「鉄道警察隊」（山口県警分署）の事務所があるので、困った場合、すぐに出向くこと。駅員に連絡する場合は、必ず「学校名、学年、氏名」を伝えておくこと。

取組名	安心・安全な学校づくりに関する取組
取組の特徴	学校安全は、安全教育・安全管理・組織活動（含、保護者との連携）が大切な要素であり、それぞれの分野で改善を図りながら安全活動を推進している。
学校名	山口県立小野田高等学校

【 取組の概要 】

(1) 安全教育について

○本校の実態に即した独自の安全教育“危機回避・対応教室”の実施

・毎年、本校独自のKYT学習形式の自作映像による危機予測や対応方法の学習により、不審者及び交通事故の危険予測、危険回避能力と事後対応能力を高めるよう努めている。今年度は、「ケータイ使用」における種々の問題も1つの危機と捉え、アンケートを実施し本校生徒の実態把握をした上で、問題提起もおこなった。



○本校生徒の実態に即した“ケータイ安全教室”の実施

・前述のアンケート結果を踏まえ、NTTDoCoMo あんしんインストラクターをお招きし、生徒の実態に即した内容の安全教室を開催した。「なりすまし被害」「メールやHPでの文章表現」「スマートフォンなどの新機種使用における危険」等を中心に講義をいただいた。

○防災訓練の改善

・今年度は、火災避難訓練において、地震による火災発生を想定した訓練を実施した。地震発生時を想定して、一旦机下に身を屈めさせ、その後、避難誘導をおこなった。

(2) 安全管理について

○救急法・AEDの教職員研修の実施

・教職員全員が緊急事態に際して適切な救急処置ができるようにと、毎年日本赤十字社による「蘇生法・AED」の実技研修を行っている。今年度も多くの参加者を得て充実した研修会となった。



(3) 安全に関する組織活動について

○“学校安全未然防止マニュアル”の活用

・さまざまな危機に対し、事後対応もさることながら未然防止が重要なことから、危機管理マニュアルとは別に本校実態に即した「未然防止マニュアル」を作成し全教員に周知している。防犯、生活安全、交通安全、災害安全など、それぞれ取組内容を記載するとともに、何処が・誰が行うかを明記し、役割分担を明確にし、未然防止活動に役立てている。

○“外部からの緊急時の電話対応・事後対応”マニュアル掲示

・生徒からの連絡も含め、外部からの緊急連絡に対してのマニュアルを電話口に掲示した。頭では理解していても、いざという時慌ててしまうことも多く、情報の聞き漏れや適切な対応ができない場合に備えてできるだけわかりやすくマニュアルを作成した。

○「保護者（PTA補導部）との連携」「交通安全指導」「文化祭警備」

・PTA補導部と合同で、生徒の交通安全の確保を目的に毎月一定期間、登下校時に本校近辺で立番指導の協力を仰いでいる（昨年度のべ52名参加）。

・文化祭時にも校舎内警備の協力を仰ぎ、生徒の安全確保に一役買っていただいた。

○保護者へのメールによる情報配信システムの整備

・緊急時における「緊急メール」配信により、生徒の安全確保に絶大な効果を挙げている。不審者や犯罪発生時は勿論のこと、大雨や台風などの災害発生時にも、いち早く連絡などの対応ができ、生徒の安全が確保できた。現在86.4%の加入率があり、今後は加入率100%を目指し、啓発を行っている。

取組名	全校生徒対象の防犯教室
取組の特徴	高校生がかかえる問題や事件を、警察署員の方の体験談などを通してわかりやすく生徒に指導していただいた
学校名	山口県立下関工業高等学校

取組の概要

日時：平成23年10月12日（水）14：30～15：30

対象：本校生徒452名及び教職員40名 於：体育館

- 下関警察署生活安全課の山本様を講師として、全校生徒に最近の高校生の問題行動とこれまで講師御自身が携わった事件を関連づけて解説していただいた。



アクセスの代償

- 社会問題になっているインターネットを題材とした右上のDVD『アクセスの代償』約20分を視聴した後で、講師の方に解説していただいた。

- 最後に暴漢に襲われたときの対応術をわかりやすく解説していただき、生徒たちにも隣同士で実践させた。



取組名	交通安全教室
取組の特徴	交通映画 ^{ゼロ} 「0からの風」(DVD) 視聴
学校名	山口県立岩国総合高等学校

取組の概要

交通安全教室

- (1) 目的 ①交通事故から「いのち」の大切さを考える。
 ②車社会の入り口に立つ高校生に、飲酒運転などの無謀運転から交通安全について考える。
 ③交通事故の被害者や加害者の立場を考えることで、交通事故の未然防止を図る
 ④犯罪被害者支援の立場から、犯罪防止や安全な社会づくりを考える。
- (2) 期日 平成23年11月18日(金) 6限LHR
 (3) 場所 山口県立岩国総合高等学校 体育館
 (4) 対象 本校生徒355名 本校保護者 本校教職員
 (5) 内容 映画視聴

^{ゼロ}「0からの風」(DVD) (111分)

19歳の一人息子の命を悪質な飲酒運転によって奪われた母親の喪失感、絶望感、怒りの中から、刑法改正における危険運転致死罪の新設につながる活動や「生命(いのち)のメッセージ展」の開催までのエピソードを交え、亡き息子の人生を代りに、そして共に生きることへの挑戦を描いている映画。

「悪質な交通事故犯の厳罰化」を求めて奔走した実話を基に、田中好子さんが演じる主人公の母親役は「生命(いのち)のメッセージ展」代表を努める、鈴木恭子さんがモデルになっている。

「生命(いのち)のメッセージ展」とは(今回は映画の中で紹介)

殺人・悪質な交通事故・いじめ・医療過誤・一気飲ませなどの結果、理不尽に生命を奪われた犠牲者が主役のアート展。
 「命の重さ、尊さ」を訴え、犯罪のない社会を創造し未来の命を守る事を目的としています。犠牲者の発す声なきメッセージを発信する。

メッセンジャーとは、犠牲者の等身大人型のパネル。生前の写真とメッセージ文を添え、足下に遺品の「靴」が置いてある。

- (6) おわりに
 今回の交通安全教室は、交通事故被害者の立場から、命の大切さや、交通安全、交通マナー・交通規則の遵守、犯罪被害者や加害者にならないための安全な社会づくりを考えることをテーマに取り組んでいる。
 映画鑑賞後、生徒全員に感想文を記入し提出させることで、今までに無い観点から「いのち」「交通安全」「安全な社会」「犯罪防止」を考えさせ規範意識や遵法精神を養いたい。

取組名	「自転車揃え隊」による通学用自転車の整備・施錠点検
取組の特徴	生徒自身が行う通学用自転車の自己点検活動
学校名	山口県立徳山高等学校

取組の概要

1 日時

- 1週間に1～2回程度、通年で実施
10月は定期考査との関係で、25日（火）、28日（金）の2回のみ
- 実施時間は、8：00～8：20

2 ねらい

- 駐輪場の自転車整列をはたらきかけることが活動の趣旨だが、改造自転車がないか、施錠忘れがないか等の点検も併せて実施する。
- 自転車の整備を進めることによって、自転車通学の安全性を確保する。
- 自転車施錠の習慣を定着させる。

3 活動内容

- 各クラスの交通委員（2人）が、該当学年の自転車置き場を巡回しながら、改造自転車、無届け自転車、施錠忘れ等を記録し、その結果を交通指導担当教員に伝える。
- 交通指導担当教員は、不備の状況に応じて、各学年との連携を図りながら改善指導を進めていく。

4 効果

生徒自身が行う生徒のための点検活動であり、よりよい学校生活づくりを進め、協力して問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てることにつながる。



「自転車揃え隊」の活動

取組名	講演「高校生の安全のために」
取組の特徴	J A F（一般社団法人日本自動車連盟）による、高校生の交通安全意識向上
学校名	山口県立宇部商業高等学校

取組の概要

- 1 ねらい
高校生の交通安全意識向上
- 2 方法
J A F（一般社団法人日本自動車連盟）講師による講演。パワーポイント使用
- 3 実施内容
開催日時：平成23年7月14日(木)9時00分～10時30分
講演内容
 - (1) J A Fの事業内容
 - (2) 自転車の点検、自転車は軽車両
 - (3) 車両に同乗する場合は、必ずシートベルト着用
 - (4) 事故はなぜ、どうして起きるのか？
 - (5) 危険予知
 - (6) 「だろう」の判断から「もしかして・かもしれない」判断へ
- 4 効果
危険予知がとても大切であるということから、傘さし運転、携帯電話使用、並進運転など日常、高校生が安易にする行動が事故につながるということがわかった。



取組名	交通安全に関する危険予測学習（1回生～3回生情報技術）
取組の特徴	前期生徒は目の前にある危険からの回避はできるものの、見えない危険を予測し、回避する能力が育っていない面もある。場面を想定し、見えない危険を察知し、回避する能力を身につけさせたい。
学校名	山口県立下関中等教育学校

取組の概要



あなたは、徒歩で老い山公園口バス停付近の信号機のない交差点にさしかかりました。
 時間は夕方、道は下り坂で、交差点向かい側のバス停、または左手バス停へ進むつもりです。

（写真は本校登校路、バス停付近）

Q1. この画面の中にどんな危険がありますか？

生徒の答え

- ・前の道の左右から車や自転車がくるかもしれない。特に右側は、急な下り坂でスピードが出ているので危ない。
- ・交差点右側からは、鋭角な曲がり角なので、車が曲がりきれずに路側帯にはみ出してくるかもしれない。
- ・後から来る車と接触するかもしれない。
- ・石につまずいてこけるかもしれない。
- ・突然、右側の店から人が飛び出してくるかもしれない。
- ・車の運転手が太陽がまぶしくて自分が見えないかもしれない。
- ・バス停が近いので、バスに間に合いたい人が、走ってくるかもしれない。

・・・・・・・・など

Q2. どのような行動をとればよいですか？

生徒の答え

- ・路側帯の内側を歩く。
- ・友達との話に夢中にならずに、周囲に気を配る。
- ・横断歩道を渡る。
- ・左右、前後をよく確認する。
- ・バスの時間に余裕をもって行動する。

・・・・・・・・など

生徒自身も、ヒヤリとした経験を1度はもっているようで、じっくりと考えさせると、ほぼ教師側が考えていた危険を予測できる。しかし、実際の場面では、一瞬の判断である場合がほとんどであり、ゆっくりと考える余裕はなさそうである。危険予測学習を繰り返すことで、少しでも早く、正確な判断ができれば、ヒヤリ体験も減るのではないかと思われる。

取組名	地震と津波に対する防災避難訓練
取組の特徴	周防大島町は、山口県内で唯一、東南海・南海地震の防災対策推進地域に指定されている。津波に対する避難訓練として、約900M離れた標高80Mの高台に避難する。
学校名	山口県立周防大島高等学校久賀校舎

取組の概要

1 日時 平成23年7月13日（水）13:25～15:10

2 目的

- (1) 地震と津波が発生した際、注意事項を守り、秩序ある安全な避難ができるようにさせる。
- (2) 地震と津波に関する知識を身につけさせる。

3 内容

(1) 地震と津波についてのDVD視聴

ア『地震だ！その時どうする？』財団法人消防科学総合センター（18分）2009.3

イ『津波から生き延びるために』財団法人消防科学総合センター（15分）2010.12

(2) 避難経路等についての確認・説明

ア 避難経路の確認

イ 注意事項

(ア) 放送を静かに最後まで聞く

(イ) 「押さない」「走らない」「しゃべらない」を励行し、速やかに避難する

(ウ) 廊下、階段、道路などでは右側を通行する

(エ) 集合後、HR委員長はクラスの人数を確認し、教頭に報告する

(3) 避難訓練

①地震発生時の避難

(学校グラウンド)

②津波発生時の避難

(学校裏手の高台に徒歩で避難)

④講評

4 避難場所集合時の様子（右図）



取組名	安全・防犯についての講話及び交通安全についての委員会活動
取組の特徴	生徒指導課による全校生徒への講話および交通委員による交通安全啓発活動
学校名	山口県立防府西高等学校

取組の概要

1 ねらい

交通事故や犯罪被害を例に挙げ、交通安全や生活安全に対する注意喚起を行い、危険を予測し回避する意識・能力を身につけさせる。

また、交通委員が主体的に交通安全啓発活動を行うことで、生徒の交通安全に対する意識の高揚を図る。

2 方法

生徒指導課による全校生徒への講話、交通委員による交通立哨および交通新聞の発行

3 講話内容

交通安全については、全校朝礼や学年集会の場で度々指導を行っている。内容は、「交通ルールの遵守」・「時間にゆとりを持って行動する」・「自らが注意していても事故は起こる可能性がある」ことなど伝え、事故防止に向けた意識を強く持つよう指導している。

また近年、女子生徒が下校時に不審者による痴漢・迷惑行為などの被害に遭う事件が数件発生している。その都度危険を避ける行動や、被害にあったときの対応について全校生徒に講話し、危険を予測し回避する意識や能力を身につけるよう指導している。

4 交通委員による交通安全啓発活動

本校では、生徒の主体性を重視し交通委員会による交通安全啓発活動を実施している。主な活動内容は、夏・秋の交通安全週間に学校の正門前横断歩道および、近くの国道沿い交差点で交通立哨を行い、通学生徒への交通安全を呼びかけることや、定期的に学校新聞を発行することで、日頃あまり意識していない交通ルールや通学路の危険個所などを確認させ、生徒の交通安全に対する意識の高揚を図っている。



交通安全新聞

平成29年 10月 20日
29年度 第29号
交通安全委員会

自転車に乗る際:

横断歩道では

- 横断歩道を渡る時は、歩行者の邪魔にならないようにしましょう。横断歩道は歩行者のものです。自転車横断帯がある場合は、そこを避らなければいけません。

横断歩道・自転車横断帯

夜には

- 薄暗くなったら、早めにライトを点けましょう。暗いときライトを点けずに自転車に乗ると、他の車両（自動車や乗用車）に自分の存在を知らせることができないので、非常に危険です。

※夜間の「無灯火」運転は、5万円以下の罰金となります。

自転車のライトは、5万円以下の罰金となります。

夜間は、歩行者の邪魔にならないようにしましょう。横断歩道は歩行者のものです。

夜間は、歩行者の邪魔にならないようにしましょう。横断歩道は歩行者のものです。



交通安全新聞

平成29年 10月 20日
29年度 第29号
交通安全委員会

自転車運転のルールについて

- 「ながら運転」をしない

「ながら運転」→電話やメールをしながら歩行者を避けながら歩かないで

→3ヶ月前以下の罰金（※5万円以下の罰金）

- 急ぎしない

思い通りに急がって通行することは、他の方々への迷惑となります。

急ぎたい時は、道路状況や歩行者の状況を確認してから通行してください。

急ぎたい時は、道路状況や歩行者の状況を確認してから通行してください。

急ぎたい時は、道路状況や歩行者の状況を確認してから通行してください。



交通安全新聞

平成29年 10月 20日
29年度 第29号
交通安全委員会

電車通学生徒の登下校について

- 駅から学校へ向かう歩道で、自転車を出さない。
- 電車の中や駅のホームなどで、お年寄りや身体の不自由な人に道を譲る。
- ロマンズ街道やその他通学路沿いにゴミを捨てない。

「自立した人になろう」

山口県も今年5月、施行入りました。みなさん、自転車乗車の際はヘルメットを装着しましょう。

山口県も今年5月、施行入りました。みなさん、自転車乗車の際はヘルメットを装着しましょう。

山口県も今年5月、施行入りました。みなさん、自転車乗車の際はヘルメットを装着しましょう。

取組名	今週の標語（教職員の朝礼伝達票を利用して）
取組の特徴	○1週間ごとに、交通安全や事故・事件の防止に関して、週の最初の日コメントを添えて、残りの日は標語のみを伝達票の下部に印刷する ○コメントが職場の雰囲気や和ませ、同じ標語を1週間続けることで繰り返しの効果が期待できる
学校名	山口県立宇部中央高等学校

取組の概要

☆「今週の標語」（週の最初の日朝礼伝達票）の例

（10月31日）

外国人が、寿司屋で腹いっぱいになり、支払をしようと覚えたての日本語で「いくら」と言ったら「イクラ」が出たので、あきらめて「how much」と言い換えたなら今度は「ハマチ」が、との話があります。

警視庁も寿司がお好きなのか、防犯スローガンに「いかのおすし」を勧めています。ついて「いかない、車には「の」らない、「お」お声を出す、「す」ぐに逃げる、大人に「し」らせる。

【 いかのおすし 】

（10月24日）

交通安全読本にヒヤリハットという言葉が出てくることがあります。帽子ではなく、危険な目にあった時のヒヤリとハットです。

帽子と危険体験を掛けて、動詞も二様に読める漢字にしたこんな標語はどうでしょうか。

【 ヒヤリハット 被るのはもう こりごりだ 】（読み人知らず）

（10月11日）

周防大橋を西へ渡ると陸橋があり、側面に「追い越しは 小さな満足 大きな危険」と大書されています。

追い越しは、自分の車が前の車がいた地点に達した時は、その車はすでに前に進んでいるわけですから、永遠に不可能です？ 無駄なあがきはやめましょう...

閑話休題。15m/s で走っている15m前方の車を 20m/s の速度で追い越すのに何秒かかるでしょうか。その間車は何m進んでいますか。また、100m先の対向車が 15m/s で向ってきている時は何が起こるのでしょうか。さらに、前の車のドライバーに対抗心が生じたら!?

【 追い越し 小さな満足 大きな危険 】

（9月26日）

今朝車を走らせていると、交通安全協会のマイク音が耳に入ってきました。「ドライバーの皆さん。“飲んだら乗らない、乗るなら飲まない”を守りましょう。」

文節が同音で始まり、大変リズムの良い標語になっています。英語では、Don' t Drink and Drive. 3つの頭文字から 3Ds と言えます。

【 飲んだら（飲むなら）乗るな、乗るなら飲むな 】

（9月12日）

road rage という語があります。rage は、怒り(anger)という意味で、渋滞や運転が妨げられる時に起こる怒りなどの感情を言いますが、割り込ませまいと、あるいは割り込まれると思わず前の車との距離を詰めることはありませんか。

【 思いやり ゆずる心で 防ぐ事故 】

取組名	安全教育の充実、安全管理の充実、安全に関する組織活動の充実
取組の特徴	外部専門講師による実地訓練、監督指導、訓練を行う。
学校名	小野田工業高等学校 定時制
取組の概要	
<p>1 安全教育の充実</p> <p>(1) 自転車点検…定期的に自転車点検を行い、チェックシートを用い、完了するまで継続して指導する。</p> <p>(2) 立番指導…毎日、校門にて生徒を出迎え、自転車、原付等の利用者の安全運転に対する啓蒙を図る。</p> <p>(3) 交通安全教室…所轄の警察に依頼し、交通安全協会から、講師を招き、安全でマナーを守った自転車や原付の運転方法を指導する。それぞれの生徒が所有する自転車や原付を使用させるので、より実態に即している。整備不十分な箇所も指摘してもらえる。(今年度は雨天のため、室内で講義。映像は一昨年のももの)</p> <p>(4) 防災訓練…火災、地震、津波発生時の通報訓練、避難訓練を行う。</p> <p>(5) 防犯訓練…不審者侵入時の対策を立てておく。教職員は生徒の安全を第一に考えて行動するよう共通理解を図る。今年度は加害者にも被害者にもならないという観点から被害者の悲惨な実情を肌身を感じることでできる「命のかけがえなさ教室」を県警より講師を招いて実施した。</p> <p>(6) その他、危険予測学習の一環として、外部講師を招き、携帯電話マナーアップ教室、薬物乱用禁止教室を開催し、トラブルを未然に防ぐ態度、習慣を身につけさせる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>AED研修</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>交通安全教室</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>薬物乱用防止教室</p> </div> </div>	
<p>2 安全管理の充実</p> <p>(1) 教職員のための研修…日本赤十字社の協力を得て、AEDや救急蘇生法の講習を実施。</p>	
<p>3 安全に関する組織活動の充実</p> <p>(1) 危機管理マニュアルの改善に積極的に取組み、教職員の役割分担の確認を適宜行う。</p> <p>(2) 学校安全委員会を定期的で開催し、上記のような安全教育、安全管理等への取組の一層の推進を図ると共に、学校全体の安全に対する意識の高揚に努める。</p>	

取組名	安全管理の充実
取組の特徴	小規模校である特色を生かし、教職員・生徒・保護者が一体となって安全点検活動を実行し、日常的に安全管理意識の涵養と定着を図る。
学校名	山口県立豊北高等学校

取組の概要

1 ねらい

- (1) 教職員・生徒・保護者が一体となった安全点検活動の推進
- (2) (1)を通じた上記三者の安全管理意識と危機対応能力（予測・回避）の涵養

2 方法

- (1) 教職員・生徒・保護者による安全点検活動と防犯研修
- (2) (1)のフィードバックによる研修内容の定着

3 内容

- (1) 本校では、毎学期末に学校安全アンケート及び校内安全点検を実施し、校内外の危険箇所や事案について、教職員・生徒・保護者へのアンケート調査や三者による点検を実施している。後者については、PTA役員会や文化祭・オープンスクール等の学校行事の際に適宜点検を依頼すると共に、今年度は学校評議員にも点検を依頼する等、複数の第三者的視点による点検を通じ、常に客観的な点検とそれに基づく改善を実施するようにしている（写真①）。
- (2) (1)で得た意見をもとに、危険箇所の改善作業や情報提供を行う。本校は小規模校であることから、教職員や保護者の情報や危機管理意識の共有・対応がスピーディなので大変助かっている。また、本校生徒の生活圏である北浦地域は、伝統的に小・中・高校と地域社会の信頼関係が濃密な土地柄であるため、それを生かした連携活動が盛んである。
- (3) 所轄警察署等に指導を依頼している交通安全研修や防犯研修は、生徒への指導だけでなく、教職員・保護者・地域社会人の研修の場でもあるという視点を持っている。従って保護者にも参加を呼びかけ、三者の危機対応能力養成の契機となるよう心がけている（写真②・③）。
- (4) 以上の活動を単発的に終わらせることなく、三者の危機対応能力を高めるため、「生徒指導だより」等を通じて、三者が研修内容をフィードバックし、研修内容の確認・定着を図れるようにしている（写真④）。本校所在地域は都市部と異なり犯罪発生件数が少ないため、地域社会の防犯意識がやや希薄である面は否めない。地域社会の教育拠点である本校の上記の活動が、地域の安全意識の啓発に少しでも貢献できるよう努力したい。いずれの活動も、本校で通常行っている行事や業務であり、今後も継続できる無理のない内容にしている。



① 事務室諸職員の剪定により動線を確保



②交通安全教室や③防犯教室は、教職員と保護者の安全意識啓発のチャンス



④学校からの通信で研修内容の確認・定着を図る

取組名	避難訓練（地震発生を想定して）
取組の特徴	『緊急地震速報』を受けての対応
学校名	山口県立岩国総合支援学校

取組の概要

■『緊急地震速報』を受信した」との想定で避難訓練を行った。実施計画の主なものは以下のとおりである。

1 目的

- 災害に備えて被害を最小限にとどめるために、
- （１）速やかに児童生徒を安全な場所に避難させる。
 - （２）地震への正しい対処法を認識する。

2 日時・想定

平成23年6月14日（火） 10:00～10:40の授業中

3 避難の手順

- （１）緊急速報が入り放送で指示
- （２）訓練地震発生
- （３）避難指示
- （４）避難開始
- （５）人員確認
- （６）講評

4 共通理解事項

- （１）教職員はすべて、児童生徒の避難を最優先する。
- （２）避難後は直ちに人員の確認を行い、教頭へ報告する。
- （３）状況によっては、児童生徒の実態に合わせた配慮をする。

5 その他 ※事前打合せで消防署から受けた指導・助言

- （１）どんな行動をするのか、大きな声で明確に指示する。また、指示すると共に心の安定を図る言葉かける。
- （２）机が揺れによって移動することがあっても、机の下に潜るよう指示する。
なお、その際、机は対角の脚を保持しなければ転倒してしまうことがあるので注意する必要がある。
また、建物の揺れ具合や柱のきしみ等の状況から、倒壊する恐れがあると感じた時には、教師の判断で防災ずきんや座布団、毛布などで頭部を覆い、速やかに建物の外へ出るようにしなければならない場合もある。
- （３）窓際やガラス戸付きロッカーなどに近い席の者には、ガラス飛散から頭部を保護するために、机の下においてもガラスに対し背を向けるよう指示する。
- （４）教室の出入り口の戸を開き、出口を確保する。
- （５）揺れがおさまった後、災害の状況を踏まえつつ、校庭などの避難場所へ誘導する。